鯨及海豚之圖

中

859
4

取扱注意
購入

ガラス使用

859-4

帝國圖書館

明治卅一・十二・廿三・購入

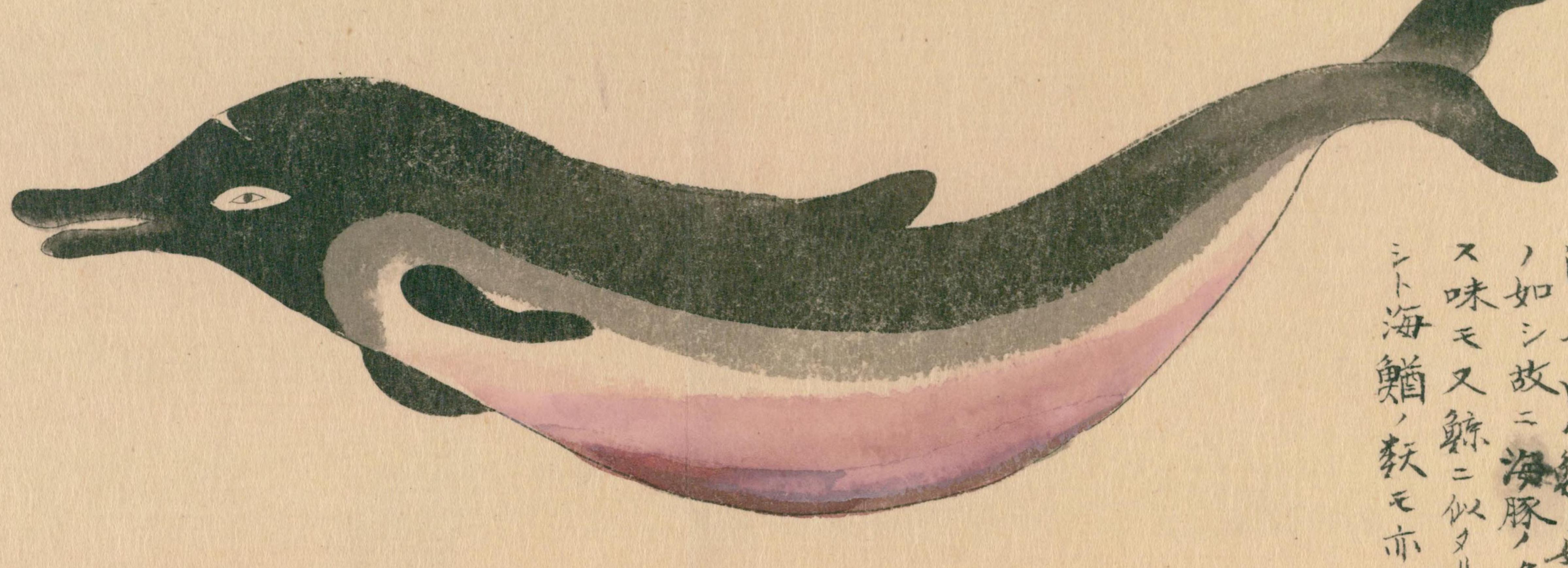
ガラス使用

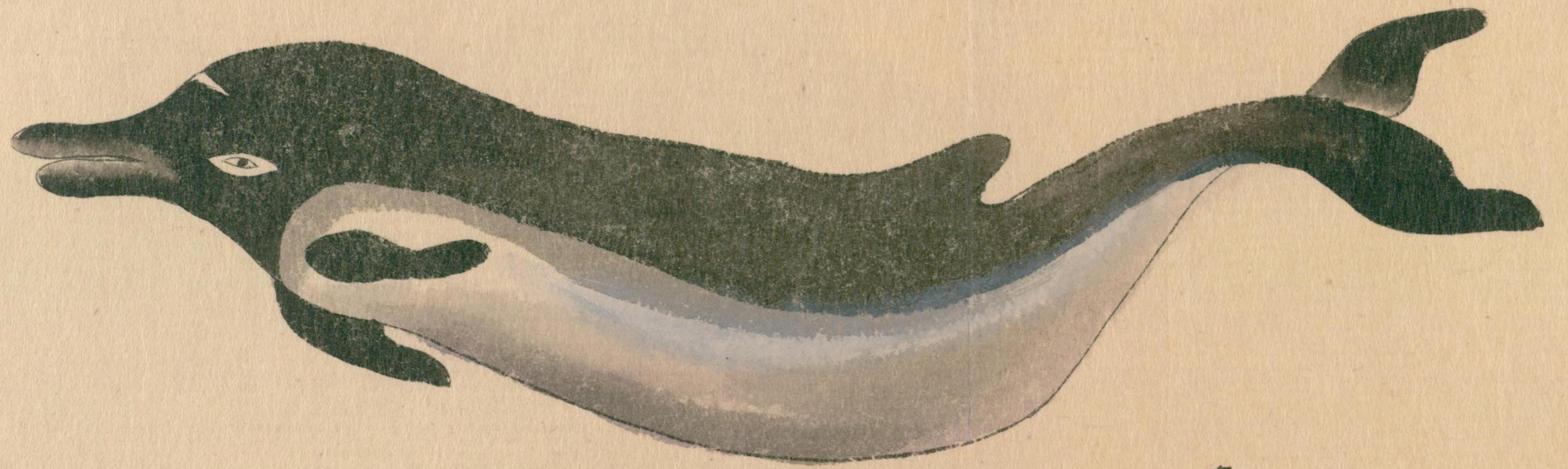
イルカ　正名海豚

其一種腹色微紅ヲ帯フルモノ長サ六七尺許漁人海中入抱テ是ヲ捕得ルニ性鈍ニメ敢テ人ヲ害スル事ナシ

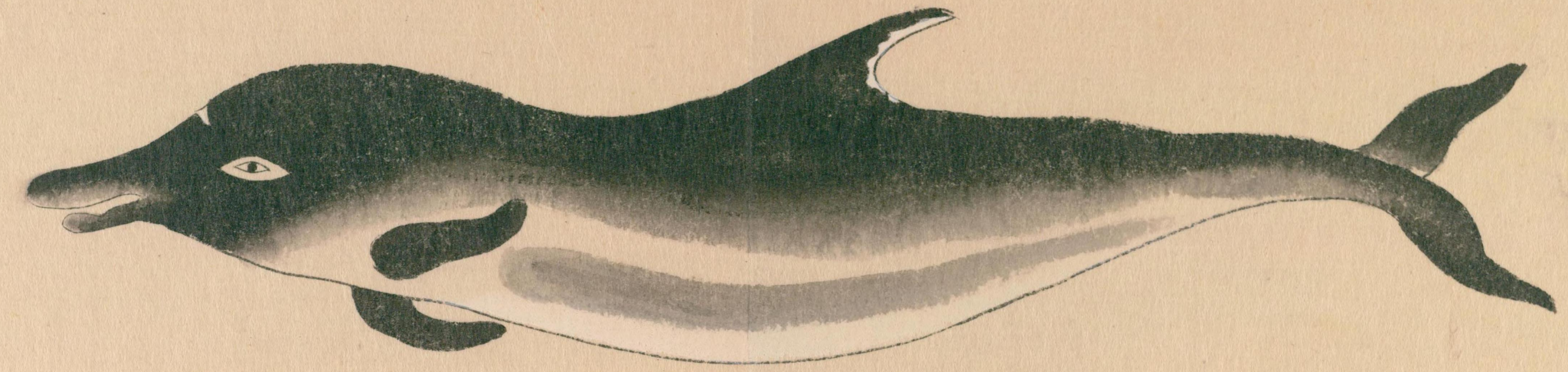
貝原翁云長一間許色黒ク形鯨魚ニ似タリ胴丸ク皮厚ク油多シ口ハ鱵（サヨリ）ノ如ク上下共ニ長ク尖レリ胸ヒレ足ニ似タリ形豚（ブタ）ノ如シ故ニ海豚ノ名アリ肉赤クシテ鯨ノ赤身ノ如シ肉ニハ油多カラス味モ又鯨ニ似タリ漁人煎メ油ヲトル古人云此者雌雄陰陽人ノ如シト海鰌ノ勢モ亦同シ両乳アリト未是ヲ詳ニセス

鯯（居六切音菊）（正字通）
奔䱐一名四鮇（前同）
江魨〃
江猪（今清俗）

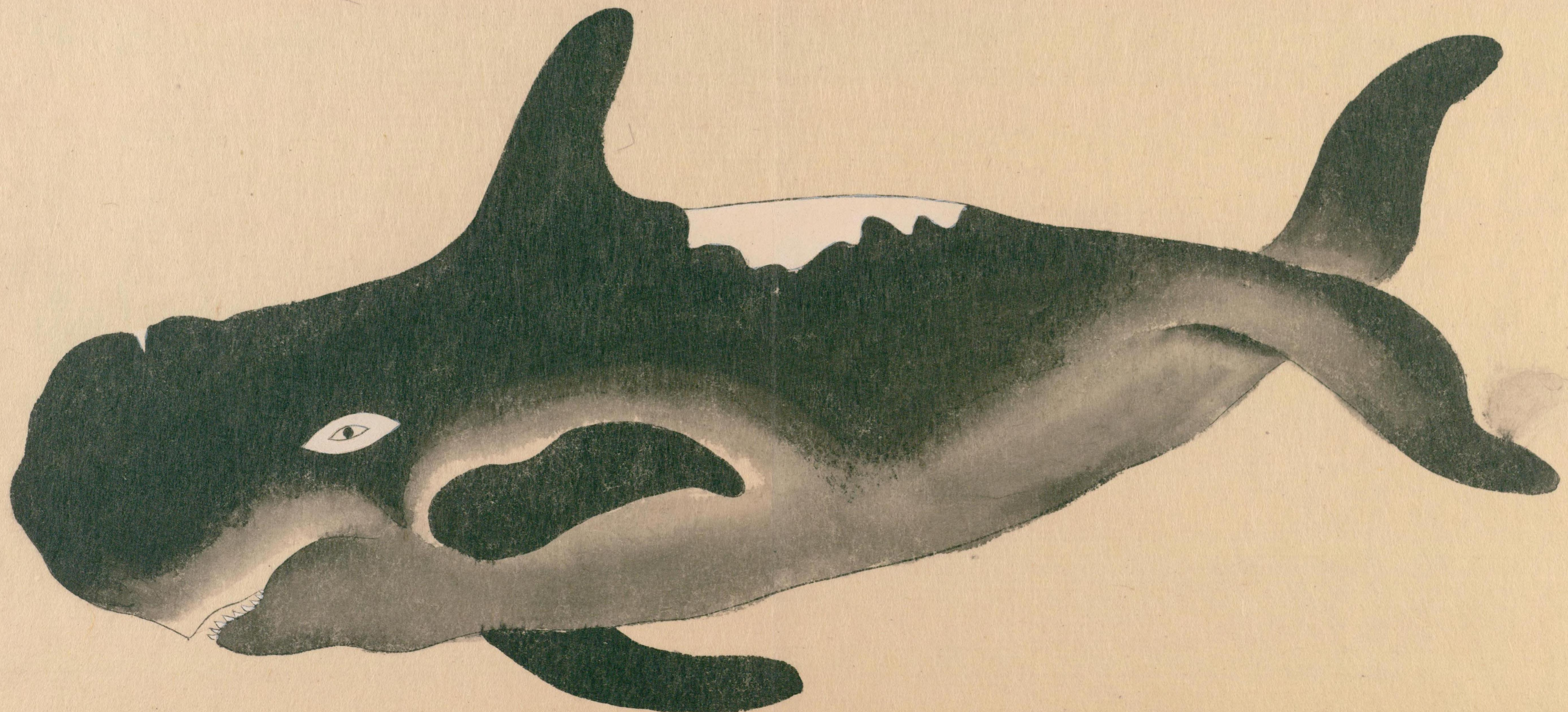




スジイルカ
或ストイルカ𪜈云リ長サ上ニ同

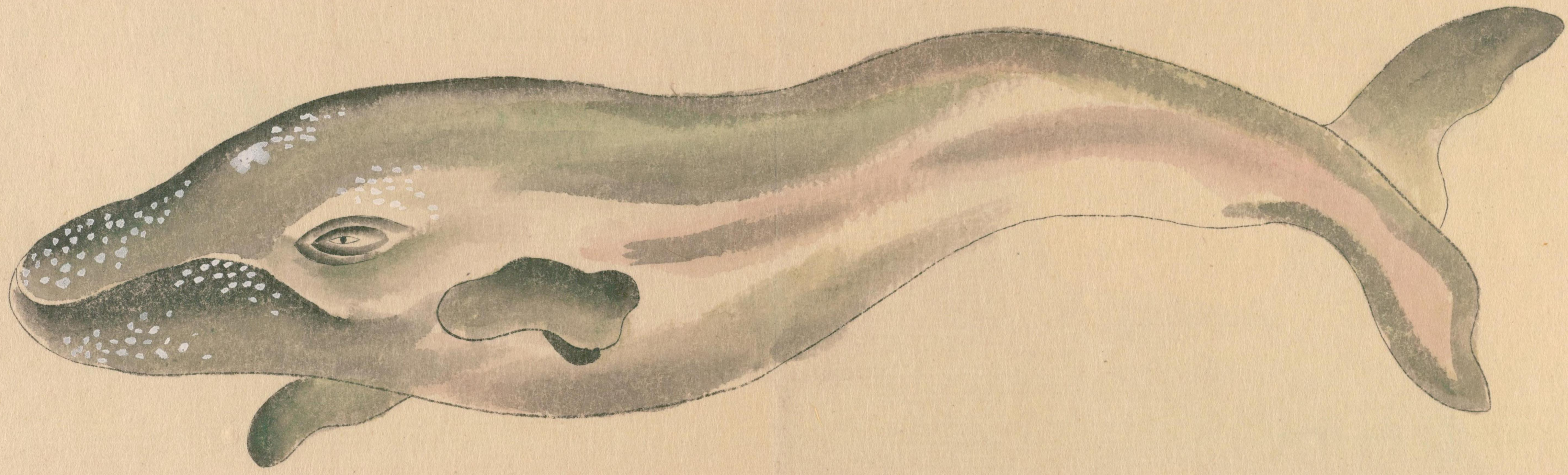


カマイルカ　相州方言
其長廿六七尺許
正名海豚



ダイナンゴト　紀州熊野浦方言

チゴクシラ（紀州熊野方言）
其長大ナルモノ一丈五尺ヨリ及二丈一二尺



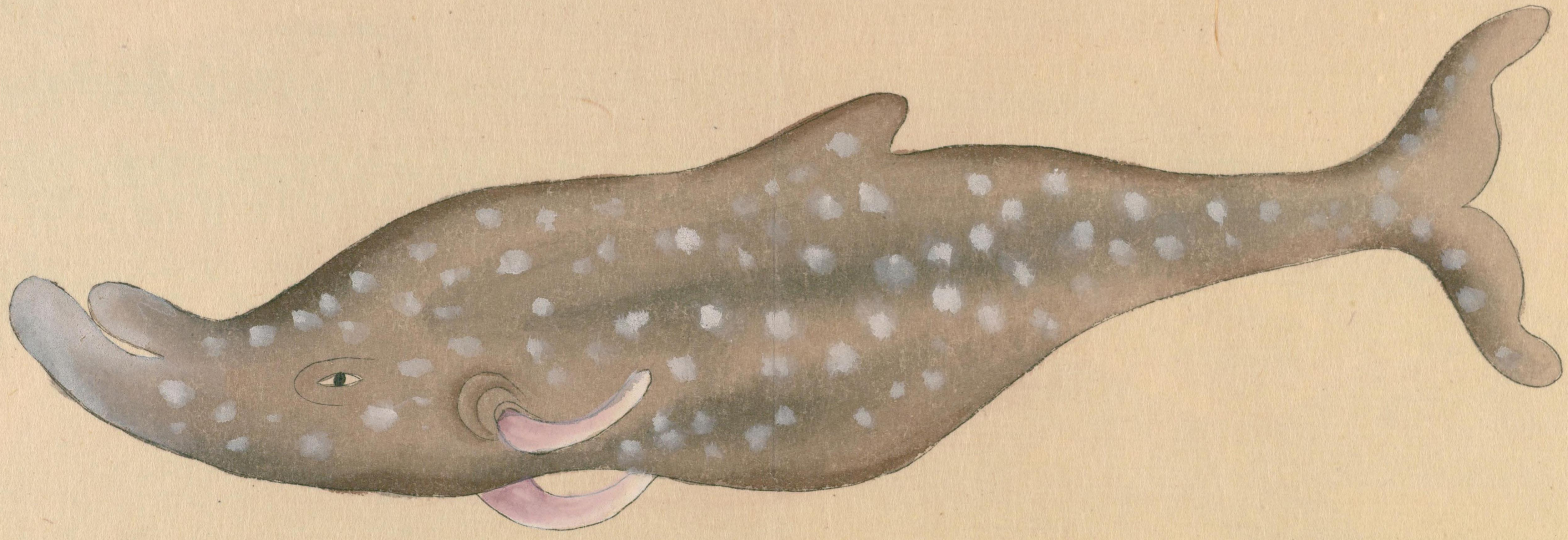
或曰長廿五尋味上品油凡二十樽
但一樽二斗入ノ積

ガラス使用

アカボウクシラ　紀州方言

其長大ナルモノ一丈五六尺ニ及俗ニ只ボウト呼フ

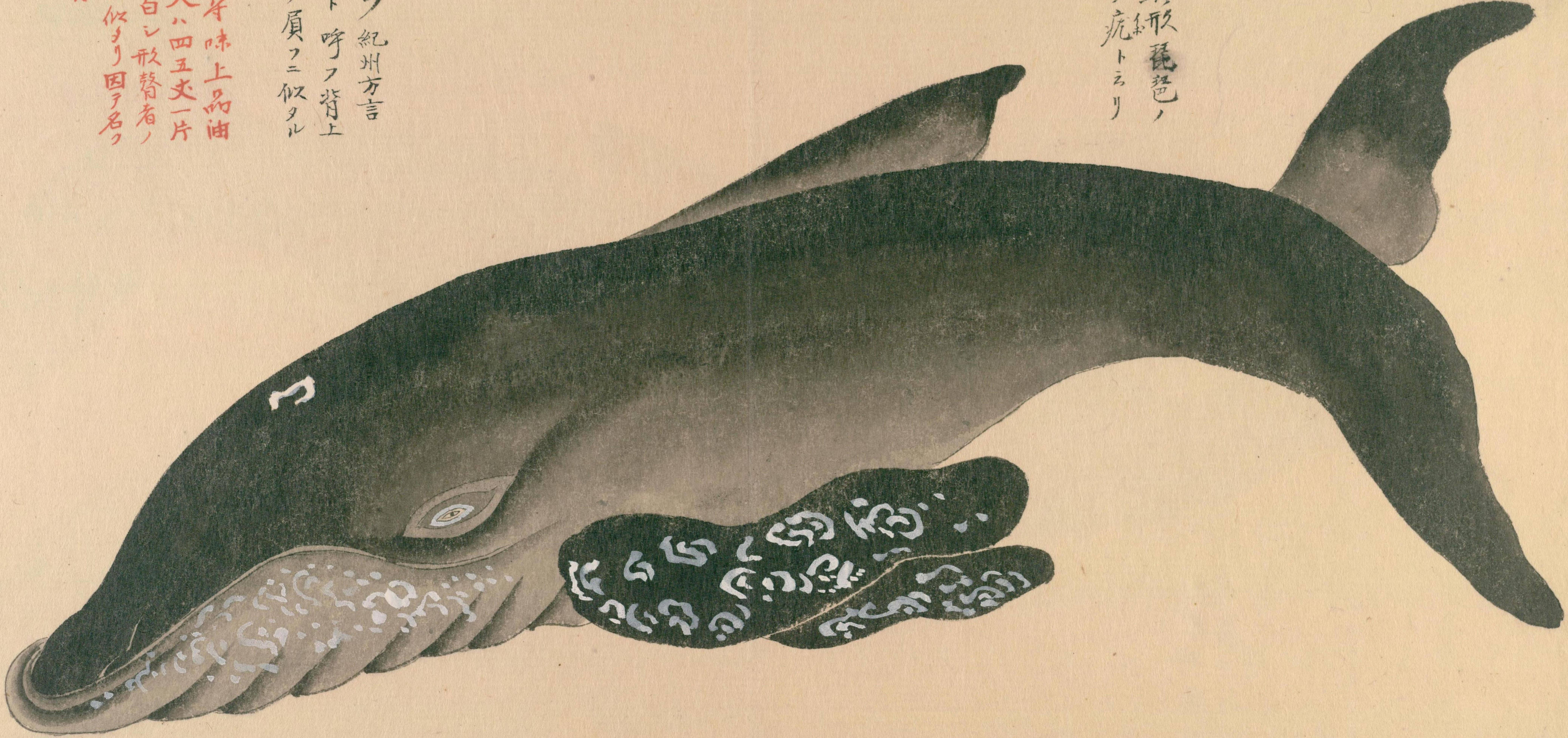
或曰長四尋味下品油凡十七樽



口中下歯アリ
上歯ナシ

帝圖

背上ノ鰭其形（象）琵琶ノ如シ漁人呼テ疣ト云リ



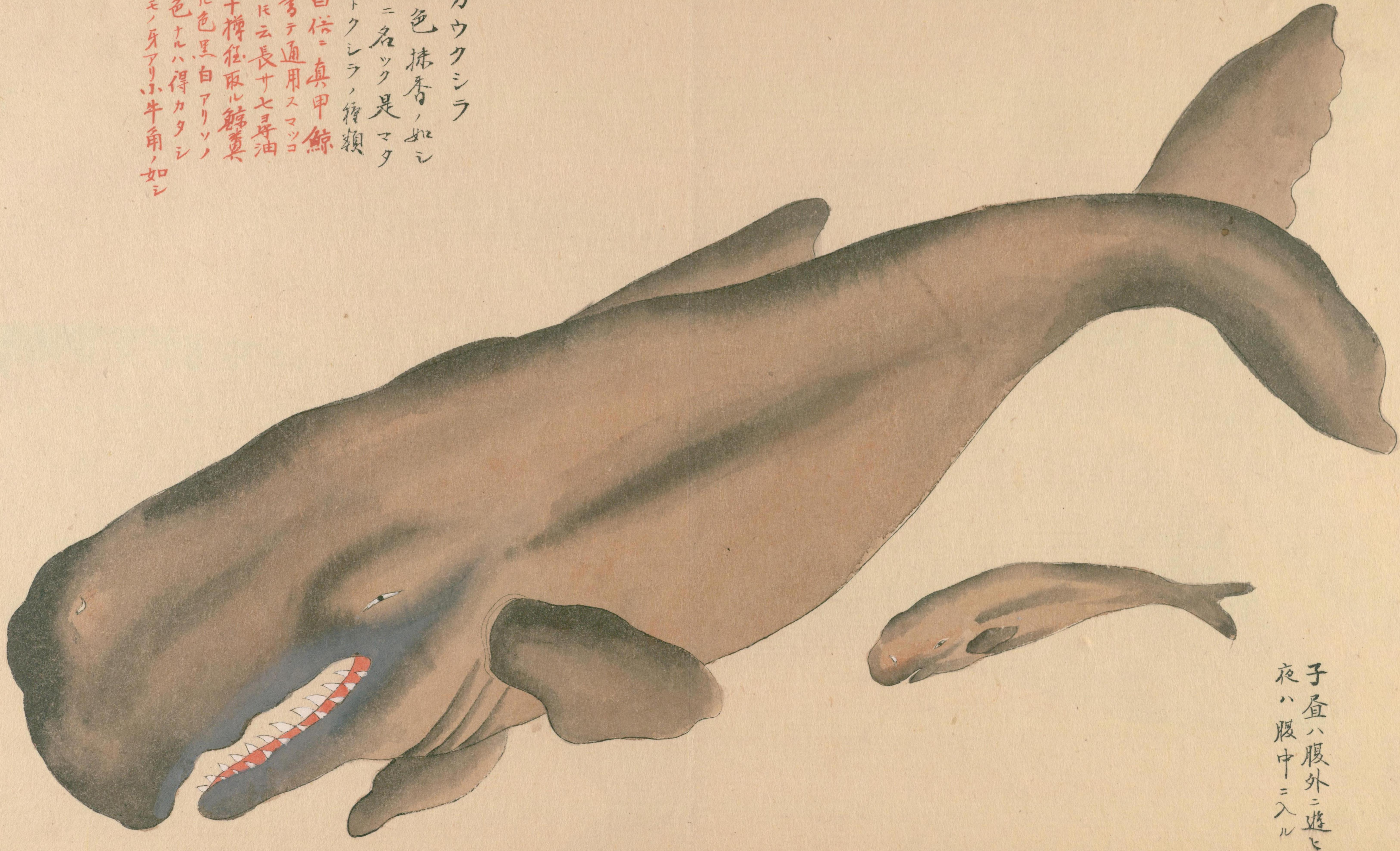
ザトウクシラ（紀州方言）又俗ニメクラト呼フ背上ノ鰭琵琶ヲ負フニ似タル故ニ名ク

或曰長サ七尋味上品油五十樽ホド大ハ四五丈一片ハ黒ク一片ハ白シ形瞽者ノ琵琶ヲ負フニ似タリ因テ名ク盲魚ニハ非ス

マツカウクシラ

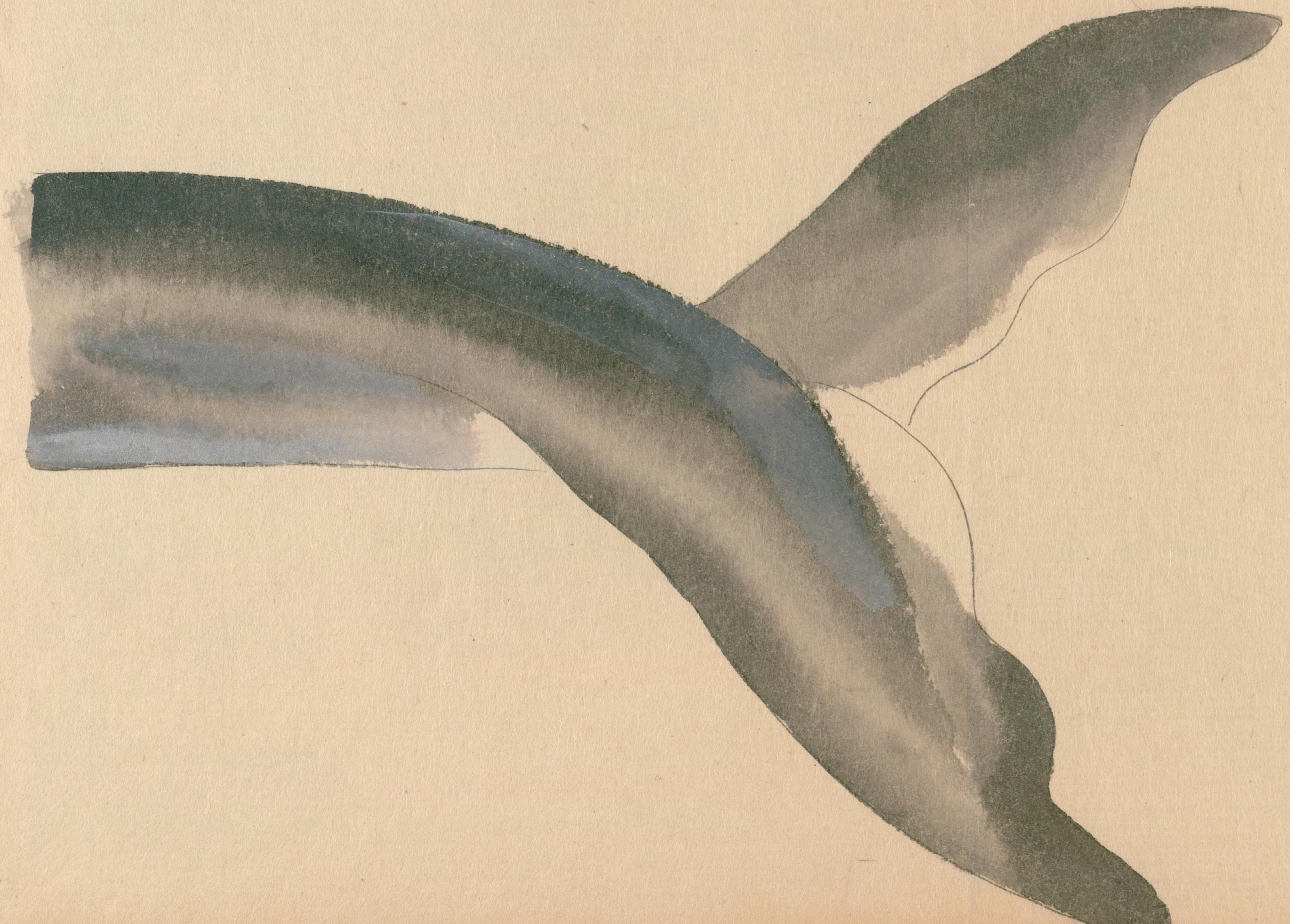
其色抹香ノ如シ故ニ名ツク是マタゴトクシラノ種類

或曰俗ニ眞甲鯨ト書テ通用ス マツコ鯨ト云長サ七尋油五十樽程取ル鯨糞出ル色黒白アリソノ白色ナルハ得カタシ此モノ牙アリ小牛角ノ如シ



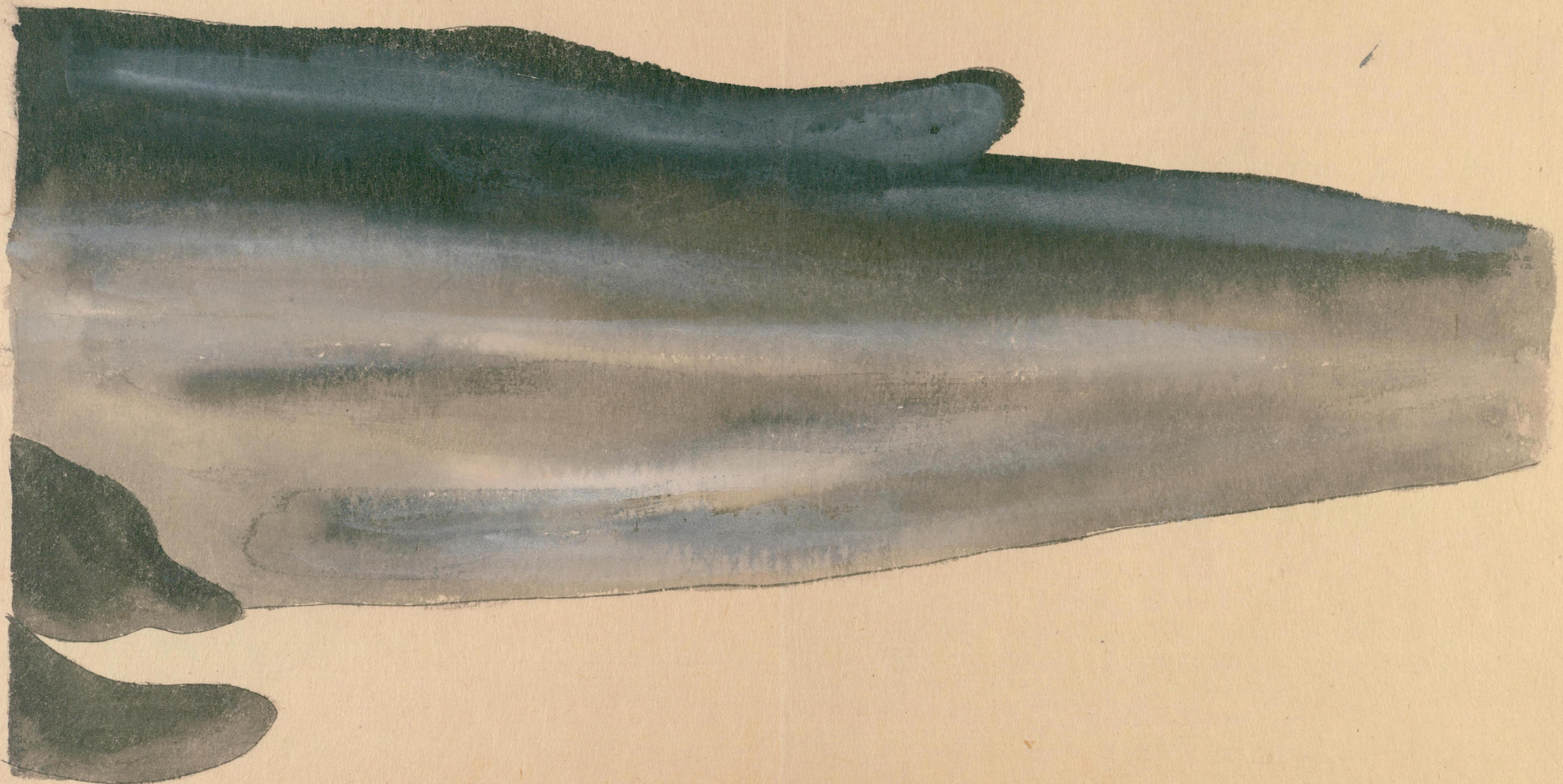
子昼ハ腹外ニ遊ヒ夜ハ腹中ニ入ル

ナガスクシラ（紀州熊野浦方言）
其長大者十餘丈ヨリ及十七八丈
正名海鰌ナリ

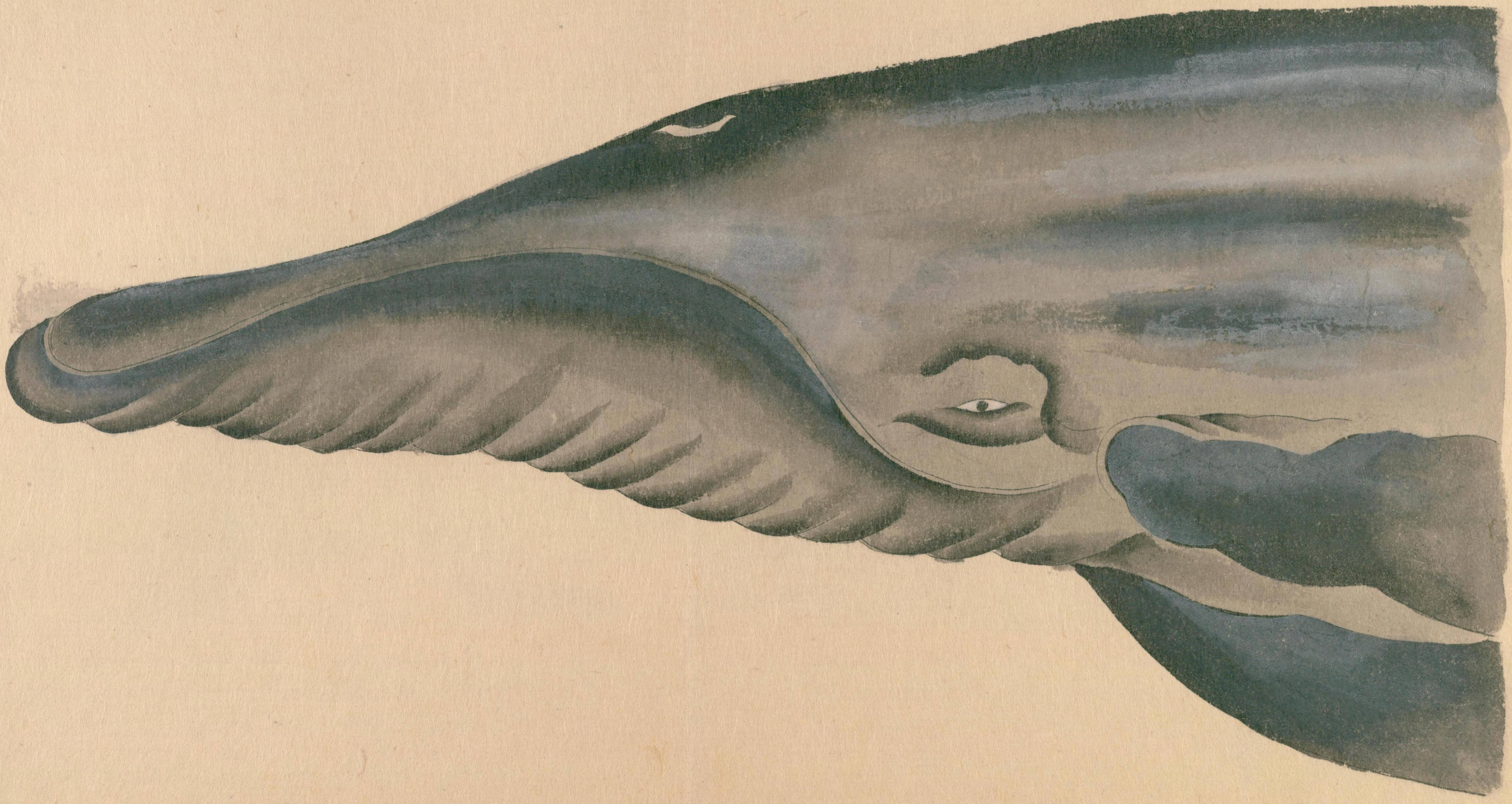


或曰此モノ水底ニ沉テ浮ク事
稀ナリ故ニ得難シ長サ大抵
十五尋餘リ味下品油四百樽
ホド俗ニ長須鯨ト書テ通用ス

ガラス使用



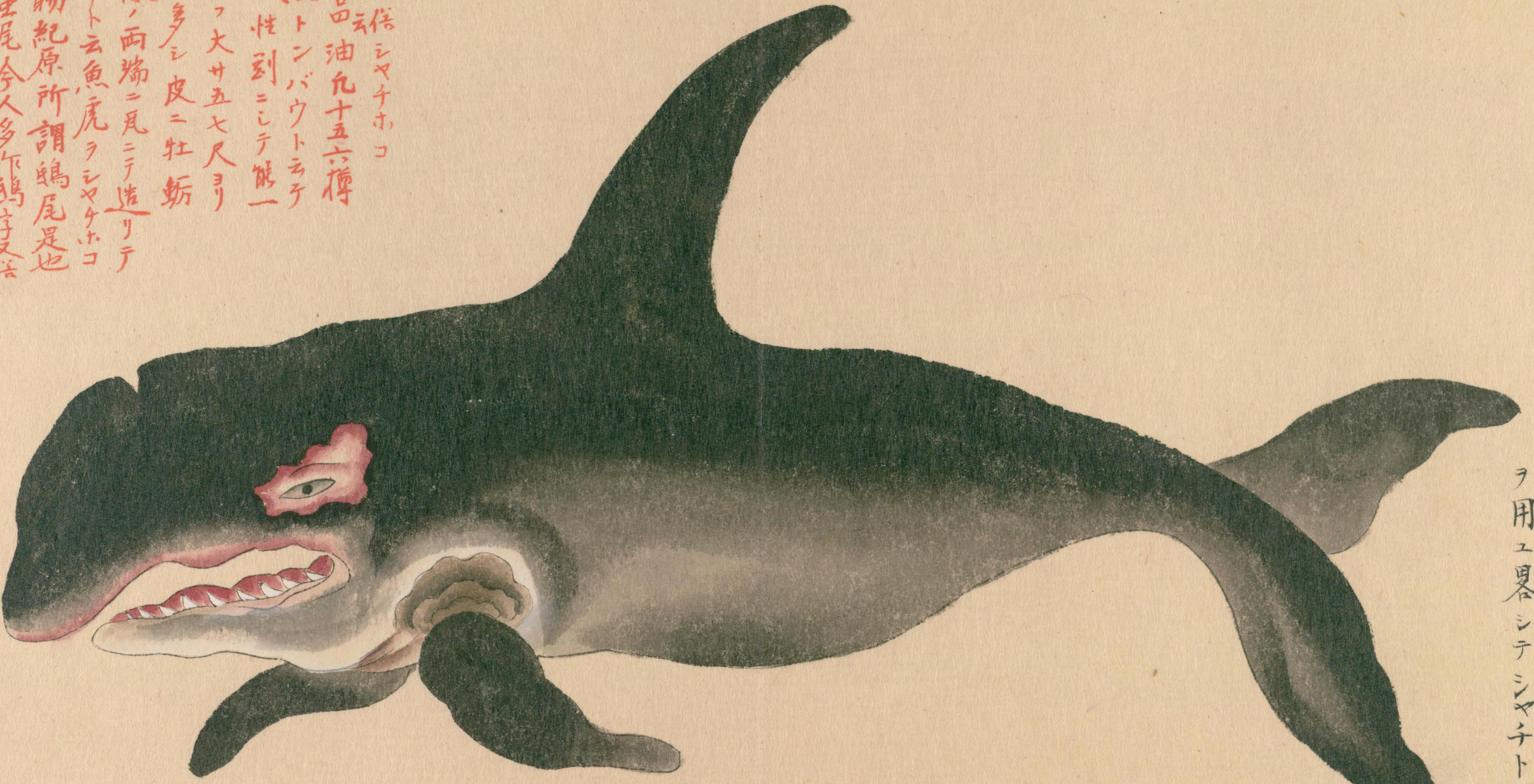
ガラス使用



シヤチホコ肥州五島方言

或呼テサカマタト偁ス又クロドホウトモ云ヘリ其長ナル者一丈四五尺許或云肥前ニテタカマツト云好テ章魚（タコ）ヲ喫フヨシ他ノ鯨ト異ナルヿハ潮ヲ二筋ニ吹ト云リ俗ニシヤチホコト呼フ鱐ノ字ヲ用ユ畧シテシヤチトバカリモ云ヘリ

或曰サカマタ又俗ニシヤチホコトモ云長四尋味下品油九十五六樽
貝原翁云黒トンバウト云テ勢州ノ海ニアリ性剛ニシテ能一切大魚ヲ咬食フ大サ五七尺ヨリ三四間ニ至ル油多シ皮ニ牡蛎生ス今城門ノ棟ノ両端ニ瓦ニテ造リテ建ツ即此魚ナリト云魚虎ヲシヤチホコト呼誤ナリ事物紀原所謂鴟尾是也蘇鶚演義載蚩尾今人多作鴟字又俗間呼爲鴟吻云々去ナカラ蚩ハ海獣ナリト云非ナリ蚩字義ヲ説クカ爲ナリ



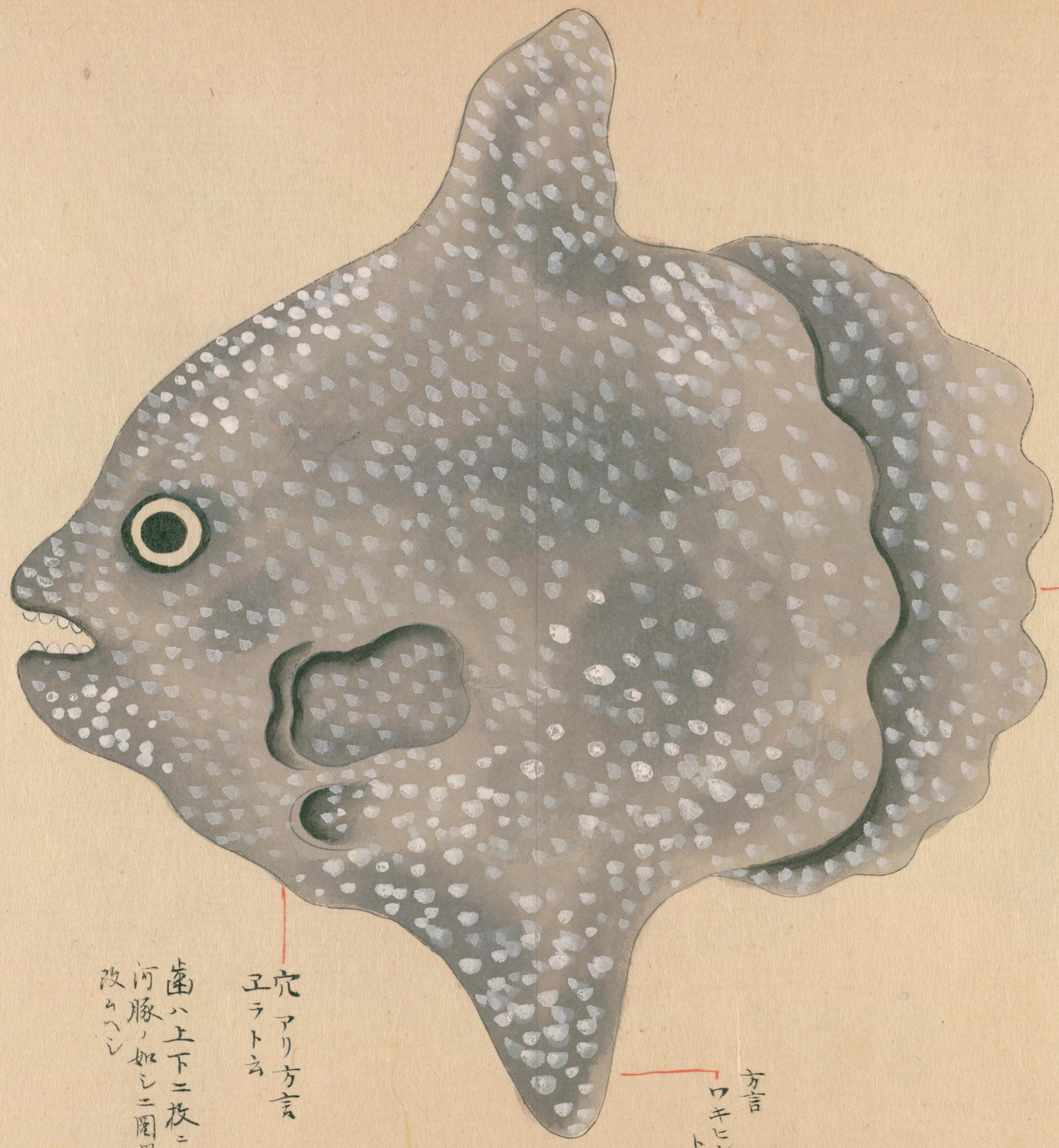
口中上下齒アリ至テ利鋭ナリ鯨魚海鰌ノ外ニ他魚ヲ喫ヘハ此モノ怒テ嚙ト云至テ海鰍ノ属此モノヲ懼ル丶ト云若此モノニ喫傷セラレテ鯨魚疵痛ミ疲テ漁人ニ獲ラル丶ヿアリ
俗ニ是ヲシヤチガケト云

前鬐
漁人呼テ
達波（タツバ）ト云

ガラス使用

ムマンボウ

長五六尺惣身サメ膚ニメ皺アリ色ハ灰或ハ黒或ハ青ミガヽモ有
肉潔白至テ淡薄味ヨシ冬月ノ外ハ肉腐餒シヤスシ



此所ヲカウヤクサイト云

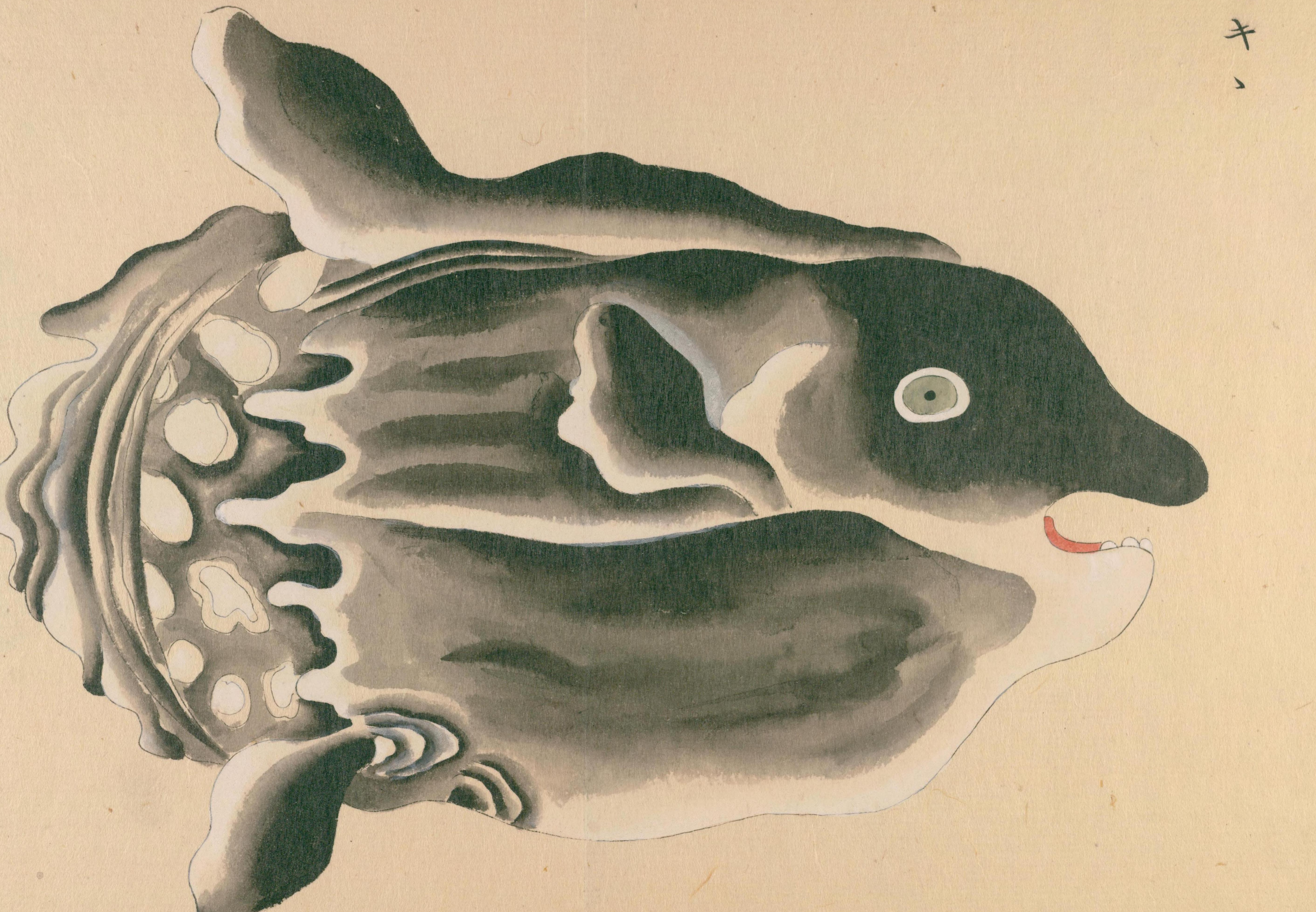
穴アリ方言エラト云

方言ワキヒレト云

歯ハ上下二枚ニメ河豚ノ如シ二図僻ニ改ムヘシ

昌蔵按ニ綱目ノ牛魚ナリモト述異記及咸賓録ニ出此モノノ肝油ヲトル多ク出ルモノナルヨシ福建ノ俗称海油魚ト云説ハ庶物類纂魚獣油ノ下ニ見タリ

ウキヽ



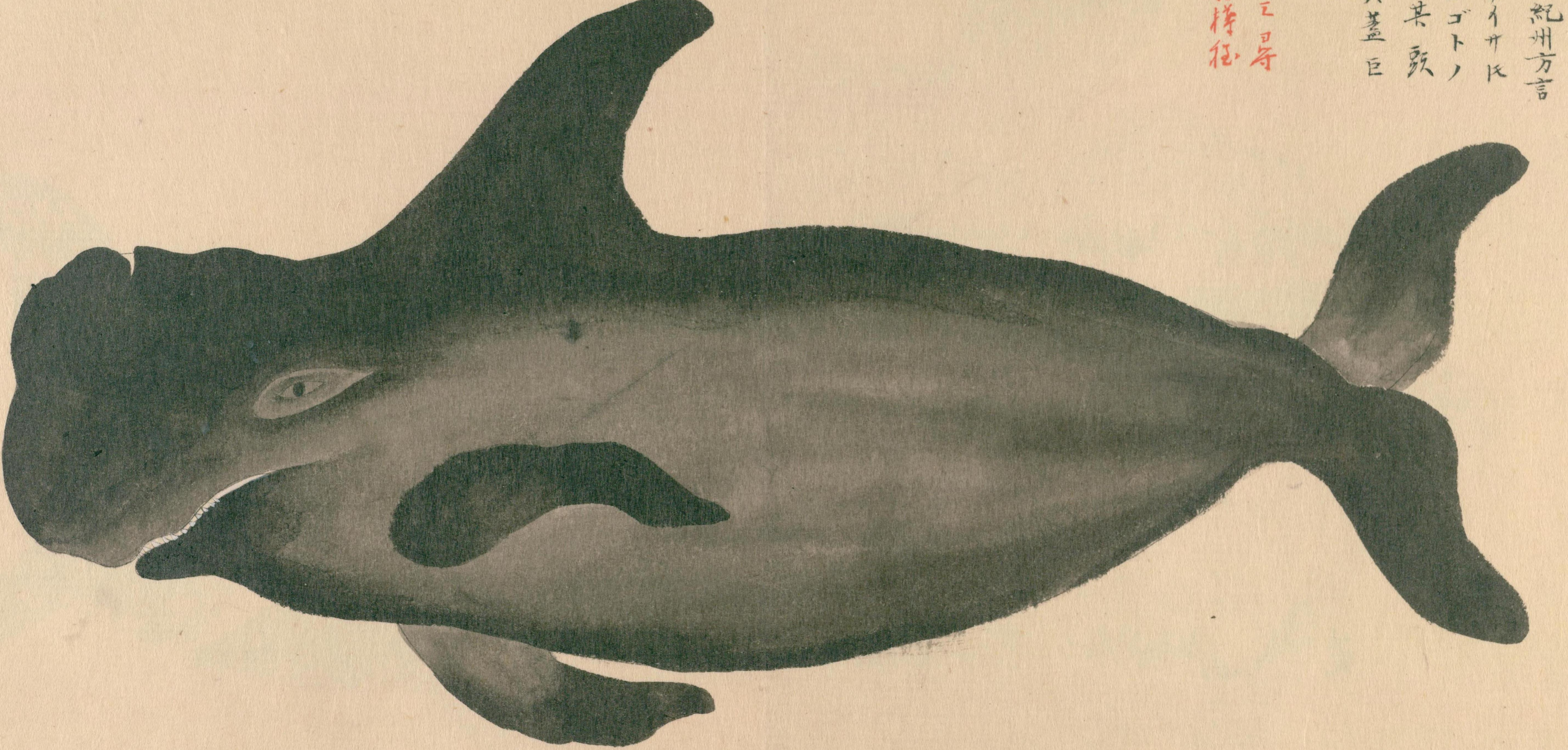
マンボウノ大腸ヲホシタルヲ俗ニウキヽト云 貝原翁云ウキ本奥州常州ノ海ニアリ他州ニハナシト云〻 近年薩州海中方言シキリト云 奥国物ナルヿヲ發明セリ 今茲寛十戊午秋其腸ヲ洗乾堅メタルヲ薩州ヨリ将来ス 水府及岩城ノ産ニ異ナラストテ橘宗仙院悦テ栗本瑞見ニ図ヲ添テ贈ラル、処也太年近ハ毎年漁人獲レ氏食スルヿヲ不知 其滋補挑經ノ功アルヿヲモ得食セス 唯中ニアル二個ノ卵魚ノミヲ取貴重ノ物トス 此魚ヲ無益ノモノトナシテ其侭棄タリト云 今ハ其食料ニシ腸ヲホシ薬用ニスルヿヲ始テ世覚怪ス一物ト為氏始テ

肉ケタルハ豈愉快ナラスヤ寔宗仙院ノ一切滲トイヘシ貝原説ニ東北海ニノミ有トイハ謬ナリ云ナクシテ近年有トイフヿモアレ氏共一例ヲ以テ論スヘカラス漁人而已知テ国人ノ知ラサル故ニ肉ケサルモノナルヘシ喉中ヨリ卵魚ノ出ルヿモ水府ノマエホウヨリモ出ツ怪ニタラス

ゴトクシラ 紀州方言

漁人借（ニナイサ氏）云リ按ルニゴトノ数多シ皆其頭大ナリゴトハ蓋巨頭ノ謂歟

或日長サ三尋
味下品油六樽程



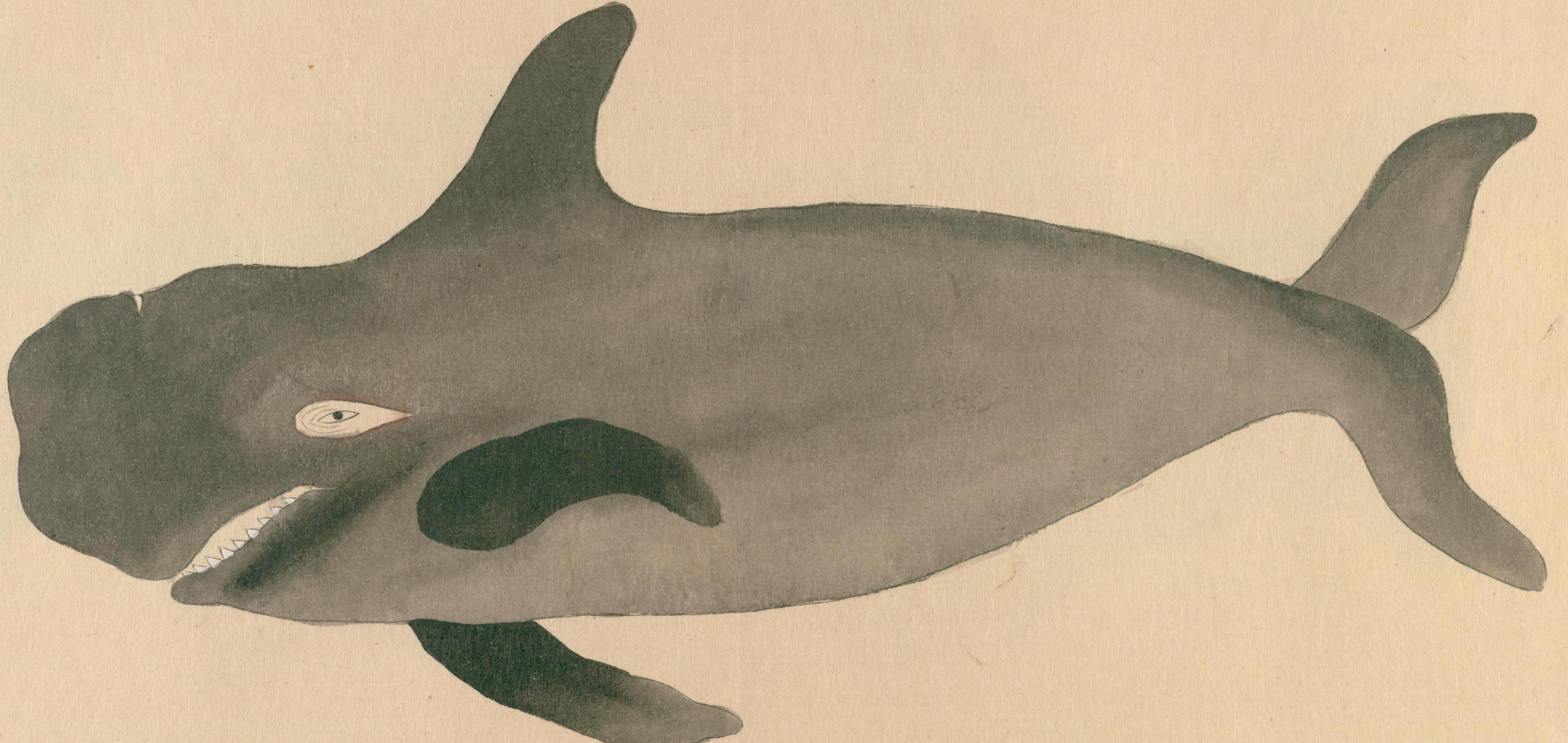
シオゴトクシラ 紀州熊野浦方言

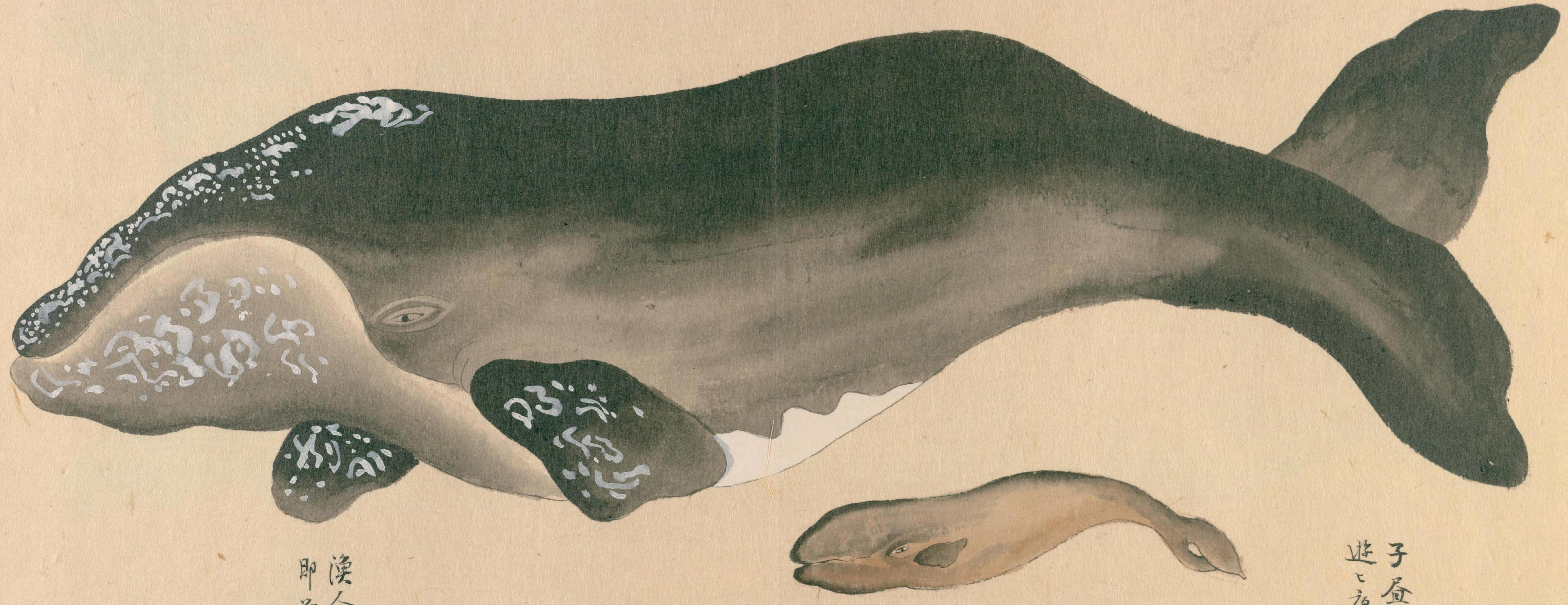
海ノ幸ト云魚ノ図ヲ載ル二冊ノ本アリ巻末ニ鯨類ノ名目ヲ挙ル凡ゴト鯨四種アリ其ハ一品潮ゴトウトイフハ此モノナリ

ガラス使用

セミクシラ　紀州方言
其長サ小ナルハ二三丈
許大ナルハ十一二丈ニ至

或曰倍ニ背美鯨ト書テ通用ス長十尋味上品油二百樽程
取ルコレ鯨妻ニテ味ノ上品ナル物也
大ナルハ十余丈ニメ油二百斛ニ至
又云セミ一季ニ背千トアリ



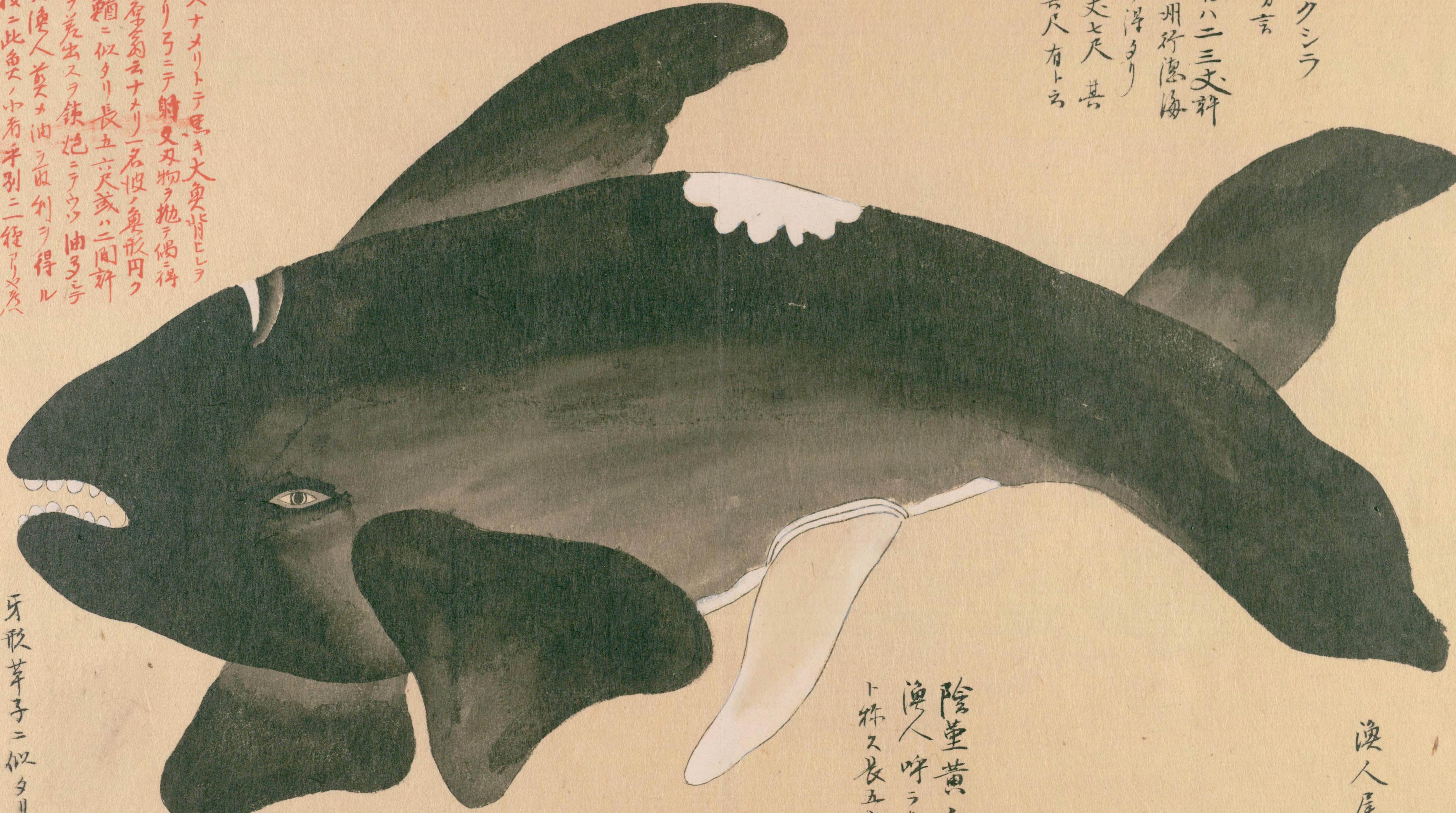


子晝ハ腹外ニ
遊ヒ夜ハ腹中ニ入

漁人タツパト称ス
即前鬐ナリ

ガラス使用

スナメリクシラ
総州方言
其長大ナルハ二三丈許
享保中総州行徳海
濵ニテ是ヲ得タリ
其雄者二丈七尺 其
雌者三丈六尺有ト云



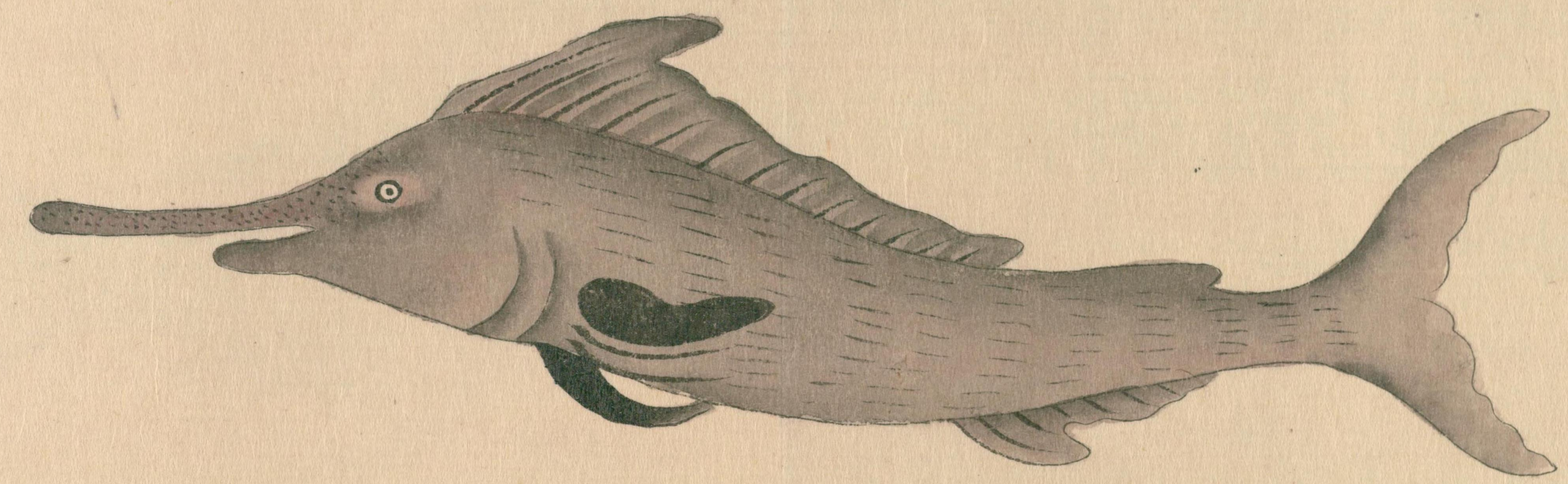
漁人尾剣ト云

陰茎黄白色
漁人呼ラタケリ
ト称ス長五六尺許

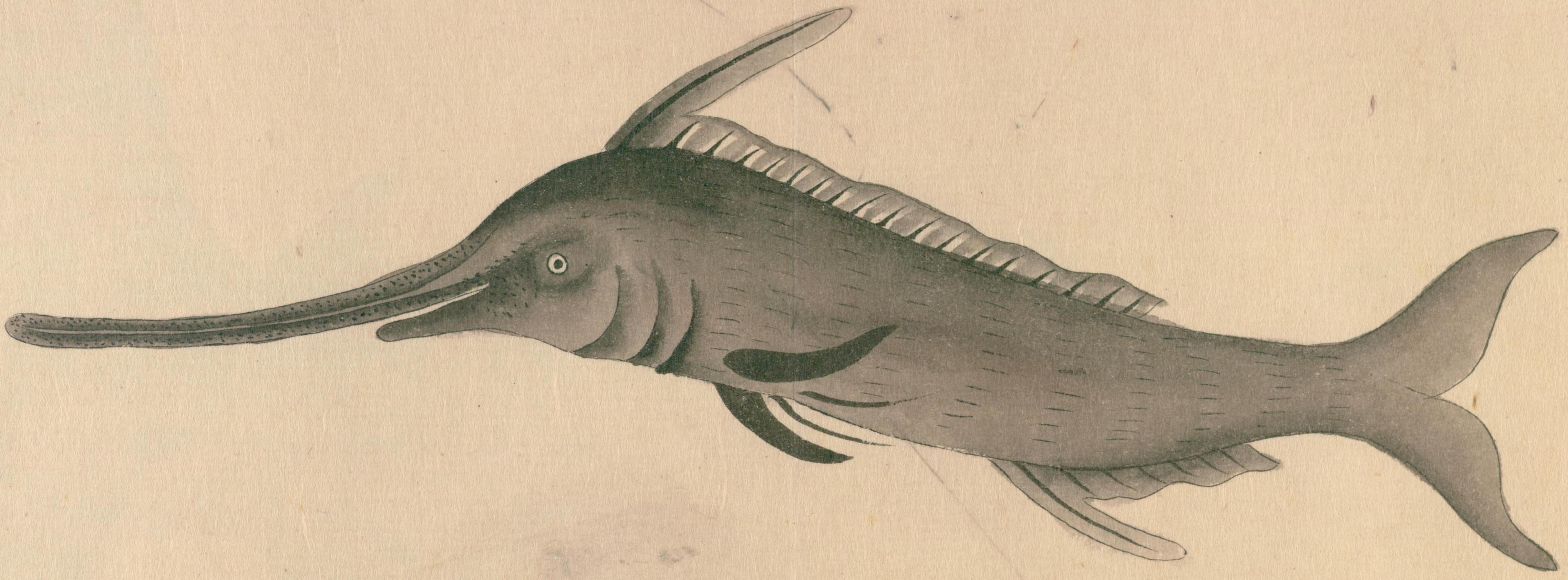
牙形芋子ニ似タリ

品川ノ海ニスナメリトテ黒キ大魚背ヒレヲ
出スコトマヽアリ弓ニテ射又刃物ヲ抛テ偶ニ得
ルコトアリ貝原篤信云ナメリ一名波ノ魚形円ク
メ黒色海鰌ニ似タリ長五六尺或ハ二間許
海上ニ背ヲ差出ス鉄炮ニテウツ油多ニテ
食スヘカラス漁人煎メ油ヲ取利ヲ得ル
モノトミヘし 按ニ此魚ノ小者乎別ニ一種アリヤ考ヘし

ナイラギ紀州方言其長大ナルハ六七尺許



ガラス使用



ケンサキ　ナイラギ　（紀州方言）　其長大ナルハ七八尺許

昌臧按ルニ松岡恕庵ノ食療正要ニ黄鮮倂ニカシト

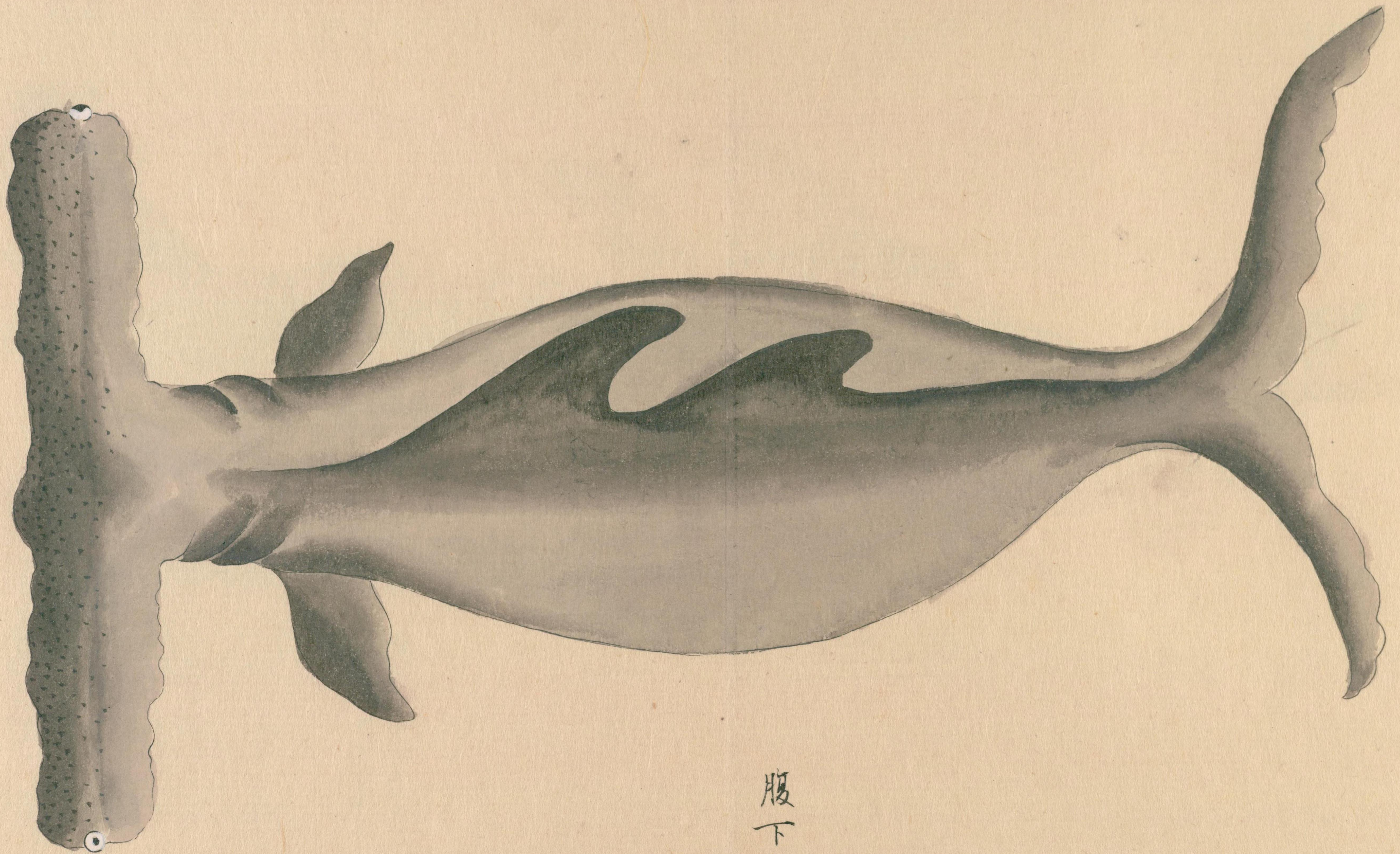
是ナリ朝廷元日ヨリ十五日ニ至マテ此乾肉ヲ以テ歯固ト

モノ

幸ヲ述

ガラス使用

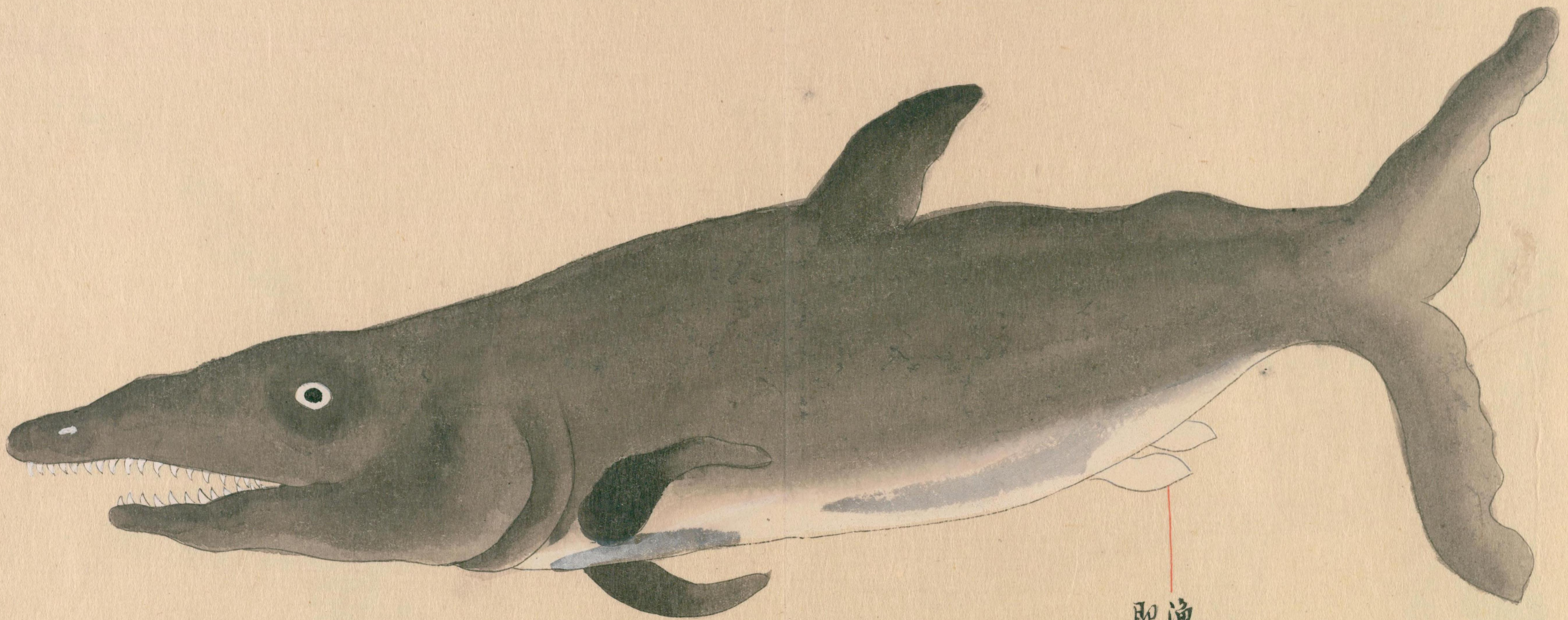
シユモクザメ　相州方言
其長大ナル者五六尺許　九州ノ地方ニテ又カカブカト云


口ハ頭ノ下ニ當タル
腹下白シ

或曰俗ニ橦木鮫ト書テ通用ス　筑紫方言カセブカト云　損軒翁云　其形状婦女ノ布ノ経緯ヲ巻ク所ノカセト云器ニ似タリ因テ名ツク　昌蔵按ニ福州府志ノ雙髻鯊ハ閩通志ノ帽鯊等彼府志ノ丫髻鯊ト称スルモノ是ナリ

イラキサメ（紀州方言）

其長大ナルハ六七尺許リ遠州横須賀辺ニテ漁人呼テカツオサメト称ス

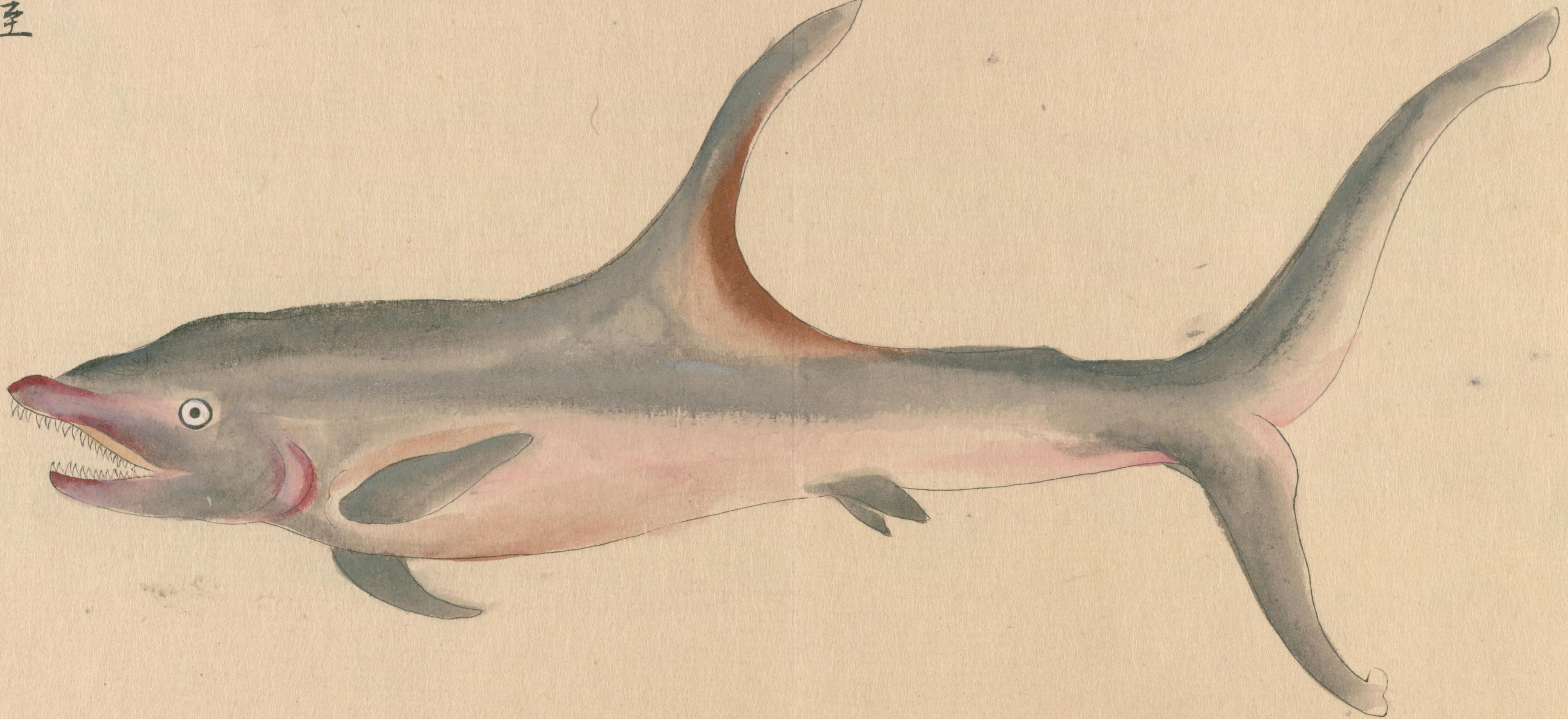


漁人チスビレト云 即下水翼ナリ

口中上下歯牙アリ一処ニ数大小交リ生ス

昌臧按ニ此モノ牙至利鋭ニメ八重二畳生ス齦骨経年ノモノ鼠秀ニハグキヲ咬傷ルヽモノヲ見ルニ骨中空アリテ小牙纏着スル乎新ニ生スルカコトシ古人モ其歯骨経年者ト出牙更生ト云理ナキニ非ス俗ニハザメト云テ小牙ヲ数重ヲ刀櫛ノ巻ニタトス潔白光澤至テ美ナリ形扁ク尖リ鋸歯アリ化石ニナリタルヲ俗ニ天狗ノ爪ト云 其深岩中ヨリ得ルヲ異ト云

ミヅザメ　相州方言　其長六七尺許

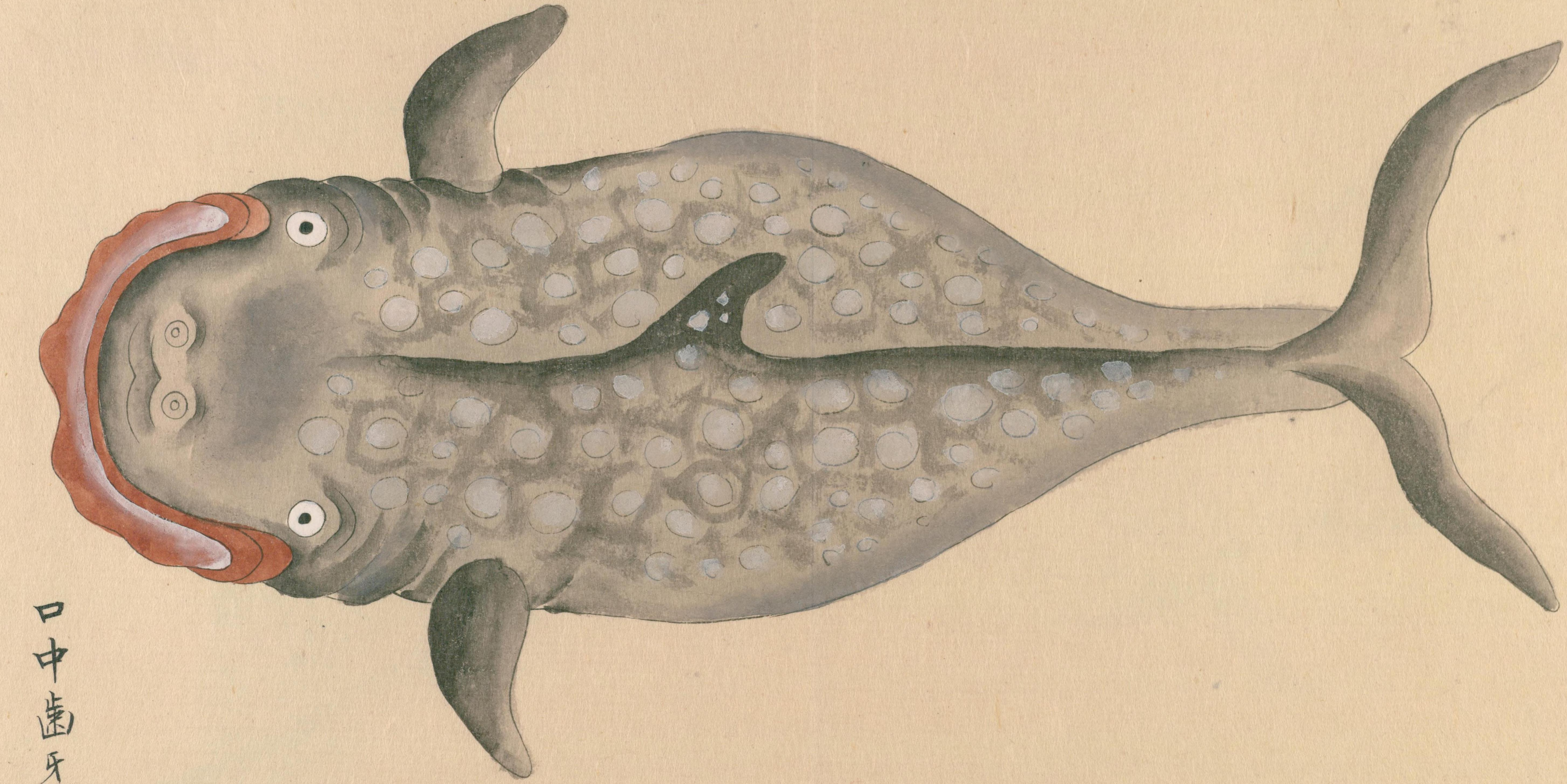


ワニサメ　其長大ナル者丈餘ニ至

昌臧嘗テ水府ノ人ニ聞云此鮫ヲ人喰サメト云水戸ノ海中ニアリ其地ノ漁人俗ニ甚兵衛サメト呼フ是此地ニ名ヲ知ラレシ鮫ヲ釣ヲ業トセシモノナリシガ終ニコノサメノ為ニ呑ル故ニ斯名ヲ得ト云漁人甚是ヲ懼ルヽモノナリ　又一種ニ俗ニ云ミヤウガサメアリ大同小違也ト云其種類多シト知ヘシ昌亦余云筑前ニテウバブカト云六七尋アリ歯ナシ因テ嫗ブカト云人ヲ丸呑ニス

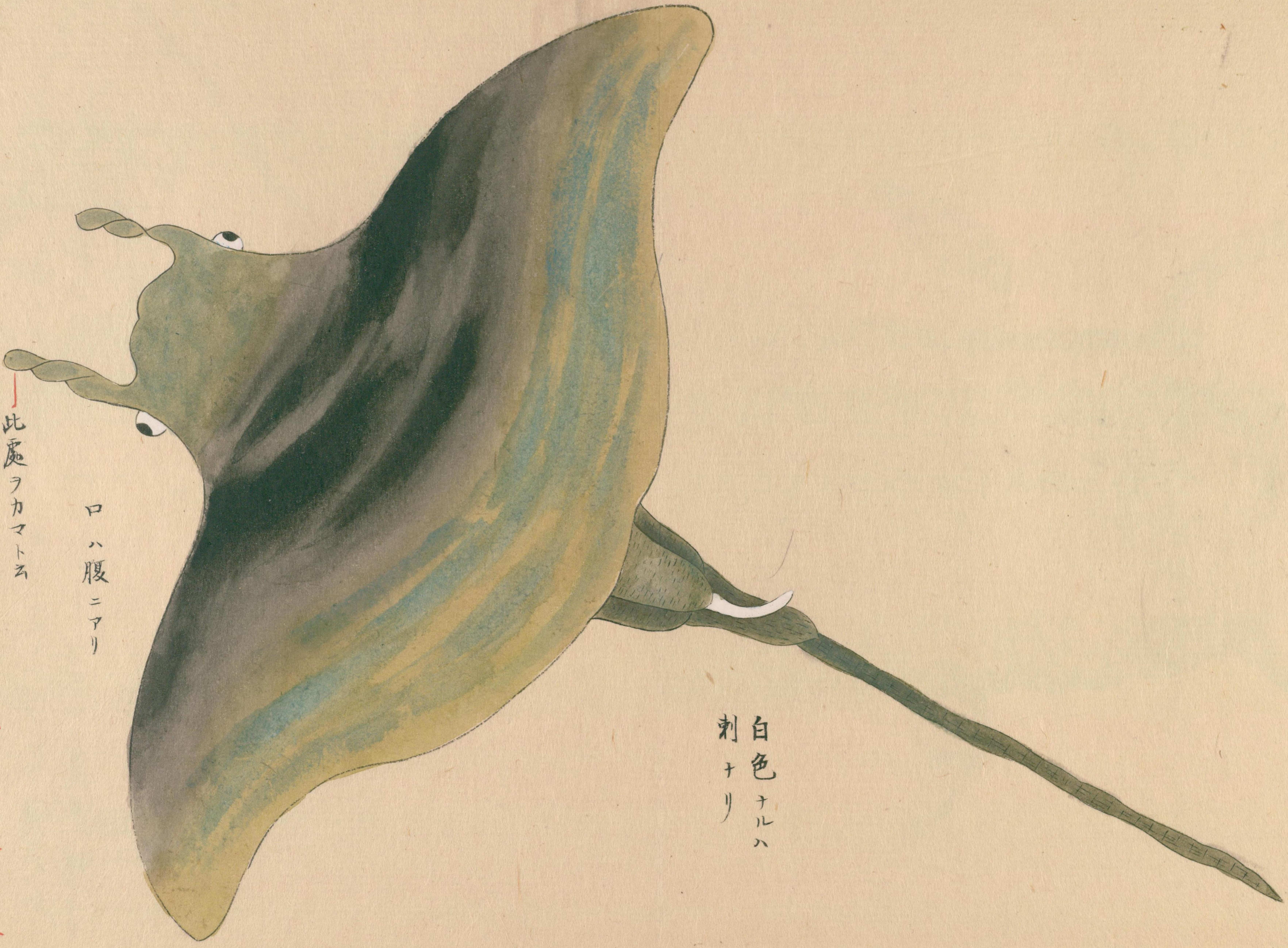
ガラス使用

ハンザウ又云ケヱイ
武州方言カヱイ



口中歯牙ナシ

或云エイノ類ニ毒エイト云アリ誤食ヘハ遍身紫黒色ニ腫レ煩懣死ニ至 先年浅草辺ニテ商人エイノ大ナル肉ヲ断賣クニ遇フ其價至廉ナルニメデヽ買歸リ同店ノ者四五輩是ヲ食フモノ立ニ死ス形状茲ニ図ノ如シ是此魚ノ類乎知ヘカラス 形異ナル大魚妄ニ食ヘカラス寧波府志ノ地青魚乎考ヘシ

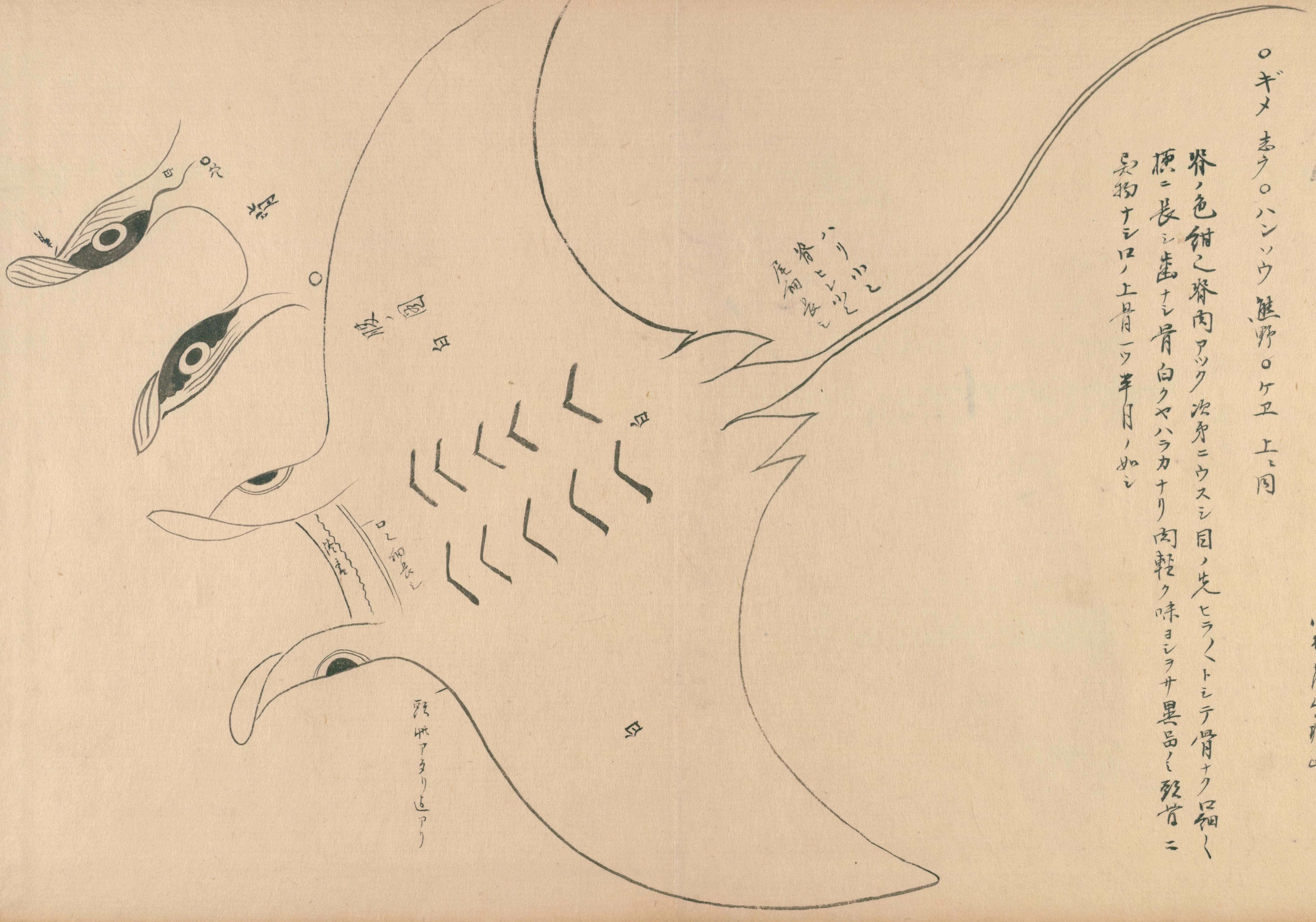

此處ヲカマト云
口ハ腹ニアリ
白色ナルハ刺ナリ

○ギメ 志ク○ハンソウ 熊野○ケエ 上ミ同

脊ノ色紺之脊肉アツク次第ニウスシ目ノ先ヒラ〱トシテ骨ナク口細ク横ニ長シ歯ナシ骨白クヤハラカナリ肉軽ク味ヨシヲサ異品シ頭背ニ異物ナシ口ノ上骨一ツ半月ノ如シ

小埜蘭山蔵図

[illegible]


○穴
白
○
白
ハリ小シ
脊ヒレ也
尾細長シ
白
口シ細長シ
淡青
頭此アタリ迄アリ
白

859
4